

# 兵庫県南部大地震 記念の日 追悼 礼拝 次第

日時 2024年1月17日(水)午後6時から  
会場 兵庫教区クリスチャン・センター  
オンライン・ライブ配信(YouTube)  
主催 日本基督教団 兵庫教区



礼拝ライブ配  
信用QRコード

阪神・淡路大震災から29年。この一年も、日本や世界中で自然や人の手による災害が起り続けています。

地震発生の瞬間まで、平穏な生活が変わらず続く、疑いもせず思い込んでいました。その時以来、事態の大きさに驚愕し、備えがなかったことに呆然としつつ、被災直後の日々を過ごしたことでした。

飛田雄一さんと神戸学生青年センターは、被災直後から被災者・避難者のためにセンター施設を開放し、言葉や法の壁で苦しんでいた留学生をはじめとする外国人の方々のため、広範なネットワークを形成して、大きな働きを始められました。決して平坦な道のりではなかったことでしょう。

その働きを伺うとともに、あの時そして今、どのように考え、次につなごうとしておられるか、飛田さんから伺うことが出来れば幸いです。

今年も追悼の時を共にします。あの大地震の犠牲者や今も苦しみの中にあるの方々、またその後も様々な災厄の中で被害を受けた方々と共にあるために、思いを分かち合う時となれば幸いです。

司式 松本あずさ(はりま平安教会)

奏楽 佐々木咲野加(東神戸教会)

前 奏		奏楽者
招 き	詩編82編6節 (p.4)	司式者
告 白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白 (p.5)	一 同
黙 禱		一 同
う た	「平和を求めて」(『讚美歌21』 561 p.6)	一 同
祈 り		司式者
う た	「あなたも見ていたのか」 (『讚美歌第二編』 177 p.7)	一 同
聖 書	ルカによる福音書 10章25～37節 (p.8)	司式者
説 教	『そのとき私たちは? そして今』 飛田雄一(神戸多聞教会・神戸学生青年センター理事長)	
祈 り	1月17日 人と自然の共存を祈る(p.9)	一 同
う た	「さあ共に生きよう」(『讚美歌21』 419 p.10～11)	一 同
黙 禱		一 同
後 奏		奏楽者
報 告		

※礼拝献金は、「アハリー・アラブ病院を支える会」を通じてガザの人々の支援のために、そして「神戸学生青年センター」を通じて在日外国人支援のために、被災者生活支援・長田センターを通じて能登半島地震被災者支援のために用いさせていただきます。

オンラインの方は以下の口座宛に「追悼礼拝献金」と明記の上お振り込みください(1月末締切)。

郵便振替口座 01120-7-25121「日本基督教団兵庫教区事務所」

## 招き

わたし い  
私は言った

「あなたがたは<sup>かみがみ</sup>神々。

あなたがたは<sup>みな</sup>皆、いと<sup>たか</sup>高き<sup>かた</sup>方<sup>こ</sup>の子。」

(詩編82編6節 『聖書協会共同訳聖書』)

## 告白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示された、試練と恵みの神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一律でなく極めて多様で、それぞれに固有の生活体験であることを知る。しかし、その個々の生活に働かれる神の臨在を認識した。そして固定化した福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳しく問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関わりと参与、その日常性のあり方を問われた。被災の現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさを生きることであると信じる。

わたしたちは、大地震という未曾有の出来事を経験した。おびたしい死を前に圧倒されながら、悲しむよりほかない現実と向かい合うことの大切さを知った。同時に、イエス・キリストにおいて歴史に啓示された神は、被災のただ中にも臨在されていることを信じる。

わたしたちは、現実の苦難の中にある生命の営みと、その出会いの中にこそ神は居られることを信じる。その信仰によって未知のものを踏み分けつつ言葉を紡ぎだしていくことが福音宣教と信じる。

わたしたちが被災の現実の中で、『地域の再生なくて、教会の復興はありえない』として歩んできたことが、神の前に立つわたしたちの信仰の応答であると告白する。

アーメン

うた 「平和を求めて」(『讚美歌21』561)

God of the nations, near and far  
詞: John H. Holmes, 1879-1964

ST. AGNES  
曲: John B. Dykes, 1823-1876

1 へい わ を も と め て あ ゆ む た み を  
2 た た か こ え を い の こ と え は く い ま も た び を  
3 と だ え る こ と な く つ づ け て い こ う、  
4 あ せ し て は た ら ひ と ひ と の  
5 て ら し て く だ さ い、 聖 霊 の ほ の お、

しゅくし て く だ さ い、 せ か い の 主 よ。  
よ の や み を つ い て な お と ど ろ く。  
へ い わ を も と め る は な し あ い を。 アーメン。  
き ず な は は ぶ き よ り さ ら に つ や い。  
こ の 世 の へ い わ を は ば む や み を。

(♩=106)

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 へい わ <sup>もと</sup> を 求 め て 歩 <sup>あゆ</sup> む 民 <sup>たみ</sup> を<br/>祝 <sup>しゅく</sup> し て く だ さ い、 世 界 <sup>せかい</sup> の 主 <sup>しゅ</sup> よ。</p>        | <p>4 汗 <sup>あせ</sup> し て 働 <sup>はたら</sup> く 人 <sup>ひと</sup> と 人 <sup>ひと</sup> の<br/>き ず な は 武 器 <sup>ぶき</sup> よ り さ ら に 強 <sup>つよ</sup> い。</p>                        |
| <p>2 た た か <sup>こえ</sup> の 声 <sup>こえ</sup> は 今 <sup>いま</sup> も 響 <sup>ひび</sup> き<br/>夜 <sup>よ</sup> の 闇 <sup>やみ</sup> を つ い て な お と ど ろ く。</p>           | <p>5 て 照 <sup>あ</sup> ら し て く だ さ い、 聖 霊 <sup>せいれい</sup> の 炎 <sup>ほのお</sup>、<br/>こ の 世 <sup>よ</sup> の 平 和 <sup>へいわ</sup> を 阻 <sup>はば</sup> む 闇 <sup>やみ</sup> を。</p>   |
| <p>3 と だ 途 <sup>と</sup> 絶 <sup>だ</sup> え る こ と な く 続 <sup>つづ</sup> け て い こ う、 ⇨<br/>平 和 <sup>へいわ</sup> を 求 め る 話 <sup>はな</sup> し 合 <sup>あ</sup> い を。</p> | <p>6 あ た 与 <sup>あ</sup> え て く だ さ い、 世 界 <sup>せかい</sup> の 主 <sup>しゅ</sup> よ、<br/>正 義 <sup>せいぎ</sup> と 平 和 <sup>へいわ</sup> と 和 解 <sup>わかい</sup> の 日 <sup>ひ</sup> を。</p> |

詩24:1 イサ9:6 ルカ1:79 IIテサ3:16

うた 「あなたも見ていたのか」 (『讚美歌第二編』 177)

Were you there when they crucified my Lord?  
 詞：黒人霊歌

WERE YOU THERE  
 曲：黒人霊歌  
 (編曲) 樹英委員会, 1967

♩ = 104

あなたも見ていたのか 主が木にあげられるの

を あ - いま おもいだすとふかいふ

かいつみにわたしはふるえてくる

マルコ 15 : 24-47

1

あなたも見ていたのか、  
 主が木にあげられるのを。  
 ああ、いま思いだすと、  
 深い 深い 罪に  
 わたしはふるえてくる。

2

あのと見ていたのか、  
 主が釘くぎをうたれるのを。  
 ああ、いま思いだすと、  
 深い 深い 罪に  
 手足がふるえてくる。

3

あそこで見ていたのか、  
 主が槍やりで刺さされるのを。  
 ああ、いま思いだすと、  
 深い 深い 罪に  
 からだがふるえてくる。

4

あなたも見ていたのか、  
 主を墓はかに葬ほうむるのを。  
 ああ、いま思いだすと、  
 深い 深い 罪に  
 ころろがふるえてくる。

鳥居忠五郎 訳

## 聖書 ルカによる福音書 10章25～37節

25すると、ある律法の専門家<sup>りっぼう せんもんか た あ</sup>が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。<sup>ため い</sup>  
「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」<sup>い</sup>26イエスは言  
われた。「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか。」<sup>かれ</sup>27彼  
は答えた。「『心を尽く、魂を尽く、力を尽く、思いを尽くして、あなたの神で  
ある主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」<sup>28</sup>イエス  
は言われた。「正しい答えた。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」  
29しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、私の隣人とは誰ですか」と言  
った。<sup>30</sup>イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く  
途中、追い剥ぎに襲われた。追い剥ぎたちはその人の服を剥ぎ取り、殴りつ  
け、瀕死の状態にして逃げ去った。」<sup>31</sup>ある祭司がたまたまその道を下って来た  
が、その人を見ると、反対側を通して行った。<sup>32</sup>同じように、レビ人もその場所  
にやって来たが、その人を見ると、反対側を通して行った。<sup>33</sup>ところが、旅をして  
いたあるサマリア人は、その場所に来ると、その人を見て気の毒に思い、  
<sup>34</sup>近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分の家畜に乗  
せ、宿屋に連れて行って介抱した。<sup>35</sup>そして、翌日になると、デナリオン銀貨  
二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「この人を介抱してください。  
費用がもったかかったら、帰りがけに払います。」<sup>36</sup>この三人の中で、誰が追い  
剥ぎに襲われた人の隣人になったと思うか。」<sup>37</sup>律法の専門家は言った。「そ  
の人に憐れみをかけた人です。」イエスは言われた。「行って、あなたも同じよう  
にしなさい。」

(『聖書協会共同訳聖書』より引用)

## 祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ わたし しぜん なか い い かんしゃ  
神さま、私たちが自然の中で生き、生かされていることを感謝します。

じぶん おお しぜん なか いちぶ しぜん なか い  
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その自然の中で生かさ  
れているということをすぐ<sup>わす</sup>に忘れてしまいます。いつも人間<sup>にんげん</sup>だけが、人間<sup>にんげん</sup>の知恵<sup>ちえ</sup>や  
ちから<sup>ちから</sup>によって生きていて、その上<sup>うえ</sup>、自分たちが自然<sup>しぜん</sup>を支配<sup>しはい</sup>しているかのように  
かんちが<sup>かんちが</sup>  
勘違い<sup>かんちが</sup>してしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう さまざま ささ はげ  
あの大地震<sup>おおじしん</sup>をとおして、自分<sup>じぶん</sup>たちが考<sup>かんが</sup>えている以上<sup>いじょう</sup>に様々<sup>さまざま</sup>な支<sup>ささ</sup>えや励<sup>はげ</sup>まし  
し え いま わたし しぜん たい ささ なぐさ とも  
があ<sup>し</sup>ったことを知<sup>し</sup>り得<sup>え</sup>た今<sup>いま</sup>、私<sup>わたし</sup>たちは自然<sup>しぜん</sup>に対<sup>たい</sup>しても、支<sup>ささ</sup>えられ、慰<sup>なぐさ</sup>められ、共<sup>とも</sup>に  
い なかま おほ おも  
生きて<sup>い</sup>いる仲<sup>なかま</sup>間<sup>ま</sup>である<sup>おほ</sup>ことを覚<sup>おも</sup>えてい<sup>おほ</sup>きたいと思<sup>おも</sup>います。

けつ にんげん しぜん しはい おほ  
決<sup>けつ</sup>して人間<sup>にんげん</sup>が自然<sup>しぜん</sup>を支配<sup>しはい</sup>しているものではない<sup>おほ</sup>ということ<sup>おほ</sup>を覚<sup>おも</sup>える<sup>おほ</sup>ために。

アーメン

うた 「さあ共に生きよう」 (『讚美歌21』 419)

著作物使用許諾申請中

